● 読書感想文コンクール 中学校の部 ●



丸山 佳乃 (まるやま かの) 陵南中 1年生

作品名:「最後の一葉」を読んで

図 書:最後の一葉

「九つ、八つ、七つ。」 「ねぇ。なんなの?」 スゥは尋ねた。

「あの最後の一葉が落ちたら私も死ぬんだわ。」

夏、私はある作品に出合いました。"O・ヘンリ短編集"この一冊には短い話がいくつも載っています。ではなぜ『最後の一葉』を選んだかって?それはこの本に人間の温かい愛情と人を思う思いやりの気持ちの両方が描かれていたからでした。

病にかかったジョンシーは、病床から見える蔦の葉がすべて落ちたら自分も死ぬんだと言いました。彼女に生きる希望を持たせたかった友人スゥは、売れない老画家のベアマンに相談します。彼は最後の一葉が落ちた嵐の夜に病床の窓辺から見える建物の壁に葉を描きました。いつまでも落ちない蔦の葉を見て日に日に元気になるジョンシー。しかし、最後の一葉を描いたせいで病にかかりベアマンは亡くなってしまいます。いつか描いてみせると言っていた傑作、最後の一葉でベアマンは夢をかなえて死んでいったのです。

この物語には、ジョンシーを助けたいという気持ちがたくさん詰まっています。 医療で助けようとする人、そばにいて同じ時を過ごし、励ましながら助けようとす る人、そっと遠くで助けようとする人、どの人も温かい愛情思いやりの心を感じる ことができます。なかでもベアマンが私は大好きです。ジョンシーのことを思い嵐 の中蔦の葉を描いた彼の気持ち。また、最後の一葉は彼の生涯を通しての最高の傑 作でもあり、夢を叶えて死んでいったところは今でも忘れられない感動のシーンの 一つです。

しかし、私は気になるセリフがあります。それはジョンシーの言った 「あの最後の一葉が落ちたら私も死ぬんだわ。」

というセリフです。彼女は何を思いこの言葉を言ったのでしょうか?よく考えて

みると蔦の葉、最後の一葉が落ちたらジョンシーは死ぬなんて変な話です。しかし、このセリフを読んだ時、ジョンシーの気持ちがこの一言で伝わってきたのではないかと思いました。きっと寂しかったのです。生きる希望がほしかったのです。実際、最後の一葉が落ちずに必死にしがみついている様子を見てまるで、生きろ!と言われているように感じ元気を取り戻したように、それが"本当の葉"でなくとも…。ジョンシーは周りの人からの愛によって生きる希望をもらったのだな、と気が付いた時さらにこの物語が好きになっていることに私は気が付きました。

私にも愛情を持って接してくださった先生がいます。小学校四年生の時、クラスの一体感などなくバラバラだった私達の気持ちを変え、教えてくださいました。人として一番大切なこと。誰かを思いやること。みんなが相手のことを考えて行動すればきっと、やりたいことができる、目標が達成できる、今の世界を変えることができる。この最後の一葉のように…。先生の愛は私達全員に届き、いつしか自分のクラスが大好きになっていました。誰かを思う、思いやりの気持ちは"愛情"なのだと思います。時にその思う気持ちが誰かを傷つけたり、素直になれずすれ違ったりするけれど、本当の気持ち愛情に気が付いた時前より愛情は深くなっているのです。

私は、この物語を読んで気が付いたことがあります。人の気持ちを救えるのは人の愛情なんだと。またこの思いは新たなつながりになり大きな輪になることを、愛は広がるのです。スゥの思いがベアマンに届きベアマンの思いがジョンシーに届いたように。私の思い出もこの物語の愛にふれ、引き寄せられたのかもしれません。次にこの作品に出会うあなたにも愛情の大切さが必ず伝わることと思います。

もしあの場面に私がいたとしたら、私はこの言葉をジョンシーに届けたいと思います。「じゃあ最後の一葉は落ちたら何になると思う? (それで終わりではないわ)葉は土にかえるのよ。蔦の葉の思いがあなたならきっと"心"に届くわね。その悲しい気持ちもつらく苦しい気持ちも、そして周りの人からのたくさんの愛情と思いやりも、いつか必ずあなたの経験や思い出となって沢山の葉を茂らせるはず…。」

冬が終われば春になる。最後の一葉は"未来へ続く一葉になる"私はそう信じている。